



大正イマジユリ学会第九回全国大会・シンポジウム

遍在する残像

パテ・ベビーが映し出す 1930年代日本の 〈小さな歴史〉

1930年代の日本には、愛好者たちのネットワークが生み出した、
全国規模の「イメージの文化」があった。

「くみりはん」の愛称で呼ばれたパテ・ベビー (Pathé Baby)、
すなわち 9.5mm フィルムを使用した個人向けの
小型映画撮影／上映機器とその流行である。

愛好者たちはクラブを作り、映画を上映し、
コンテストを行い、雑誌を発行する。

1920年代中盤の輸入にはじまるそのわずか十数年の歴史には、
ナショナルな物語の対極にある、

市井の人々と記録技術の等身大の交わりが紡ぎ出す
「小さな歴史＝物語 (マイクロ・ヒストリー)」が映し出されている。

北海道～関西各地の所有者から研究用に委託された映像をもとに、
この「記憶の集積」について考えてみたい。

日時 2012年3月17日(土) 14:00～17:30

会場 北仲スクール(横浜文化創造都市スクール)

〒231-0003 神奈川県横浜市中区北仲通5丁目57-2

電話:045-263-9075 MAIL info@kitanaka-school.net

参加費(非会員) 300円

協力 小樽市総合博物館／富士フィルム

講演＋映像上映 水島久光(東海大学)

パネリスト 原田健一(新潟大学) 林田 新(同志社大学大学院)

コメンテーター 樋口伊喜夫(横浜記録映画) 松本一正(株式会社東京光音)

司会 佐藤守弘(京都精華大学)・・・敬称略

終了後 北仲スクールにて懇親会(会費別途)を開催します。

(実機による映像上映を行います)

